

2018 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	駒澤 伸恭
研究テーマ	各種災害に網羅的に対応できる病院内訓練プログラムの開発

<助成研究の要旨>

目的

災害時は、突然かつ想定外の事象が発生し、発生規模や時間帯も予測がつかない。このような災害対応においては、医療機関、病院間、病院行政間の「連携」が何よりも大切である。また災害支援は急性期だけでなく慢性期も重要であるが、急性期、亜急性期、慢性期の「連携」は必ずしも円滑でない。特に、2018 年の各種災害に見られるように集中豪雨と地震の重複などの場合に「連携」はさらに困難となる。しかし、これらの職種間「連携」は災害時のような非常時には円滑に機能しないことが大きな課題である。

災害の発生頻度が低いことや発生状況は多様であり、災害時における連携に関して、実経験での訓練は不可能である。シミュレーションを用いた系統的な災害対策訓練は、災害拠点病院に限定される。災害は発生時期も場所も予測不能なため、災害拠点病院だけでなくすべての病院や診療所の事務職を含めたスタッフの連携が必要である。加えて、行政や消防との連携が不可欠であるが、それら機関との「連携」を意識した訓練法は本邦には存在しない。

小括すると、現在の災害連携訓練の問題点は、下記の 3 点である

- ①災害時の医療機関、病院間連携に関する問題点の網羅的調査がない
- ②医師、看護師、薬剤師、理学療法士だけでなく、事務職等を含めた「多職種連携」に関する推奨がない
- ③連携に関する適切な訓練法が開発されていない

我々はシミュレーションによる多職種連携教育法の活用により、上記問題が解決できると考えている。本研究では、現在の病院災害訓練の課題に対応するための「多職種連携を意識した網羅的な災害対策訓練法」の開発を目的とする。

方法

第一段階 国内外の災害連携教育の課題抽出と教育法の探索

第一段階として、「災害時の病院災害多職種連携教育において何が問題か」という課題検索を行う。災害時の国内外の連携課題の資料を収集し、それぞれの災害時の病院規模や被災状況における対応を「学習シナリオ」として総括する。また、人為的災害であるテロ対策等の連携に関しては、欧米の多職種連携教育法を調査し、総括を行う。

第二段階 多職種連携に重点をおいた網羅的災害訓練法の確立

第一段階で総括した国内外の学習シナリオを改善し、教育病院群のメディカルスタッフによる参加からシナリオや学習スタイルへのフィードバックを行う。シナリオとしては、火災・災害・地震・集中豪雨・津波・不審者侵入・テロ発生時の連携を含める予定である。さらに、地震後の集中豪雨などの重複差異災害に対する連携対応も教育内容に含める。

それぞれのシナリオに対して、①病院自体が被災しているか、②被災地区にあるか、③被災地区外か、の 3 パターンに分けて検討する。

これらの、多職種連携教育法を用いた網羅的災害訓練法には、医師・看護師・薬剤師、理学療法士などのメディカルスタッフだけでなく、病院事務職員も含む。

成果

シミュレーション環境を用いた医系学生に対する教育講習会を開催し、災害対策の基本的対応構築を目指した。

また、卒後教育の一環として 2018 年 6 月 18 日の大阪北部地震における振り返りを元にして部署ごとの連携を含めた災害対策訓練を行った。次年度以降、多職種連携を重視した教育プログラム開発へつなげていきたい。